

南のひと 09

写真・文=水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を込めて撮影している。



属 汐璃（さっか しおり）さんは、小学2年生の夏休みに関東から家族と共に竹富島に移り住んだ。昨年春、東京の高校へ進学が決まり約8年間暮らした竹富島から旅立って行った。

先日、電話で汐璃さんと話す機会があり、東京での暮らしや学校での話を少し聞かせてもらった。今年の春休みは、カナダへホームステイに行くそうだ。「カナダへ行くの楽しみです。どんな心境ですか？」と聞くと「最初は言葉が通じないかもしれないと緊張していたけど、今、カナダから来ている子と単語だけでも意外と通じ合えて、結構イケるかも！と思うようになった」と期待に満ちた楽しい口調で話してくれた。

ツバメは、春になると遠い南の国々から太陽の位置を目印にして方向をさだめ、途中の島々で体を休めながら北へと1日に50km～300kmの距離を飛び続けるという。移動の際は、群れをなして飛び立つが、その後は各個体がそれぞれ自分の判断で単独に目的地を目指すそうだ。

八重山の中でも竹富町と与那国町には高校がないため、中学校を卒業するとそれぞれの道を選び島から旅立って行く。

ツバメは太陽を目印に飛ぶが、15歳の春を迎えた彼らは、何を目印に飛び立つのだろう。

水野暁子 みずのあきこ
1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介しているYouTubeチャンネル「八重山ライブラリー」も。